

数年前、国宝・重文が目白押しの大分国東へ六郷満山に総称される仏教芸術の石造群を鑑賞に訪れた。独自の仏教文化にあたる個性派で本州とは、ちょっと異なる石仏群を鑑賞し強い感銘を受けた。

国宝の臼杵の石仏群、熊野の磨崖仏、文殊仙道の羅漢像などほれぼれする石造物、先人の美意識、完成まで気の遠くなるような年月を費やし、後世の見る人の心を癒してくれるものに感動し “ハマッテ” しまった。

最近では仏像、石佛など近場の古寺仏像めぐりをしている。運慶に代表される仏像、優しく安らぎをおぼえる表情と対峙していると心の底から癒してくれるような気になる。

京都の古寺めぐり、奈良大和路。里の仏像めぐり、紅葉時期の三山めぐりなど、又、大分のタクシ[^]の運転手「石仏めぐりは、2回、3回じゃ回れんバイ」と云われたが、癒しの道行きは暇と体がゆうことを効くうち、ぜひ実現したいと思っています。

余談ですが決してメジャーな寺、仏像ではないが、鎌倉にある杉本寺(坂東1番札所)ここには数体の運慶作の仏像が安置されている。ほとんど雑誌などにも取り上げられてない、“ひそかにたっている””と云う言葉がぴたりの仏像である。鎌倉に行かれた際にはどうぞ・・・

中旬に開催されるみちのくの仏像展、ぜひ鑑賞したいと思っています。

徳田 愛美 (白岡市在住・日野町出身)